

資料に親しむ会 令和5年度第9回

「雨と雪の風景版画」

京都府立京都学・歴彩館職員が「雨と雪の風景版画」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和6年1月9日（火）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 48名
- 内 容 まず、冬の自然美を表す雪景に触れ、夕立や白雨、驟雨などの雨の違いを解説した。雨景では、江戸時代前期の名所案内における雨の表現と、雨を線で描く美術作品としての木版画の技法を見た。
風景版画作品では、長谷川貞信の「都名所之内」や歌川広重の「京都名所之内」、「都百景」における雪景と雨景を紹介した。
- 参加いただいた方々のご意見（参加者アンケートより）
 - ・「雨」や「雪」という着眼点が珍しく、面白かった。
 - ・雨の表現方法について、西洋画と日本の木版画の違いが分かった。
 - ・雨を線で描くのは版画が適している。日本独自の技術に関心を抱いた。
 - ・当時の版画職人の技術力の高さに驚いた。
 - ・文学的に解析するなど、風景版画にはいろいろな鑑賞方法があると再認識した。
 - ・図版資料が多く、QRコードでデジタルアーカイブにアクセスできるのが良かった。
 - ・説明が分かりやすく面白かった。

（講座の様子）

